

## 木を体感する建築

指導教員 吉松 秀樹 教授 印

OBEB1123 越田 尊心

## 1. 問題意識

現在の住宅において使用される素材にはあまりこだわりがないように感じる。

## 2. 木の良さ

木には木目、香り、肌ざわり、温かさがある。視覚的に木質材と木材を判断することは難しい。しかし香りや肌ざわり、温かさは嗅覚や触覚などによって体感することができる木ならではの良さである。

## 3. 木を体感する

嗅覚：香りが強いものとして檜などがあり、精神的な安らぎを与える。

触覚：熱伝導率が低いことで手の熱が逃げずにとどまり温かく感じる。触れることによって木の重さや柔らかさを感じることも出来る。

## 4. リグノトレンド構法の活用

リグノトレンド構法は乾燥した部材を格子状に並べ、かつ空間をとることで木材の断面性能を上げ、接着剤で各層を十字型に接着、複合パネル化する (fig.1 fig.2)。



fig.1 リグノトレンド構法壁パネル



fig.2 リグノトレンド構法床パネル

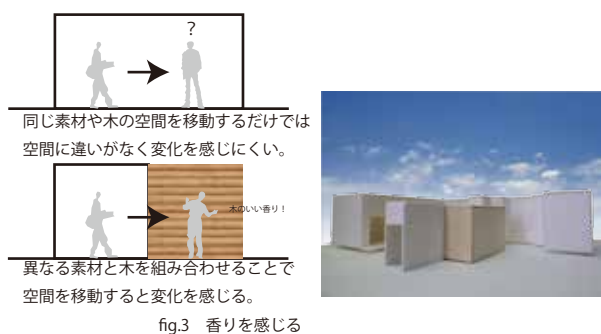


fig.3 香りを感じる

## 5.1 香りを感じる

木造と RC 造を組み合わせることにより素材の変化に敏感になり、木材の香りを感じやすくする。また素材を檜にすることにより、より強く香りを感じさせる (fig.3 fig.4)。

## 5.2 肌ざわり・温かさを感じる

ハーフビルドでリグノトレンド構法を取り入れ、実際に木材に触れることでその触り心地・木の温かさを感じられるようにする。

## 5.3 木目のきれいさや色合いを感じる

家の中にいながら外側を見ることができるようにし、きれいさや色合いを感じやすくする (fig.4 fig.5)。

## 6. 居心地に良い空間

木を体感することで都会では感じる事が少ない精神的な安らぎ、温かさを感じ、より心を落ち着かせられる心地よい空間をつくる事ができる。

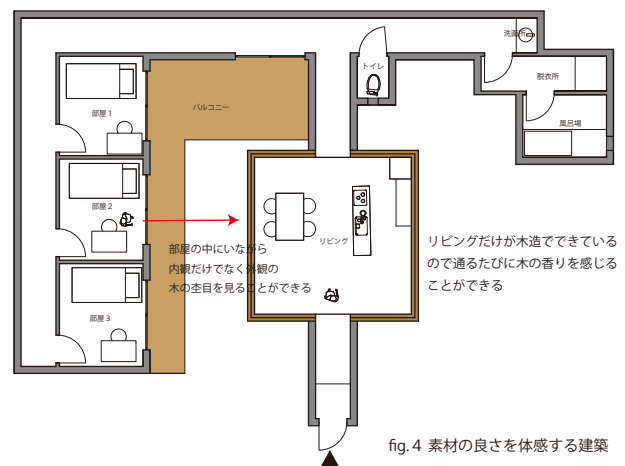


fig.4 素材の良さを体感する建築



fig.5